

日本赤十字篤志看護婦人会(その2)結成の主旨とその活動

著者	堀 良子
雑誌名	NICかわらばん
巻	405
発行年	2010-01-03
URL	http://hdl.handle.net/10631/798

看護大通信

64



基礎看護学領域教授

堀 良子

篤志看護婦人会の初代総裁は有栖川宮親王妃董子、会長は鍋島侯爵夫人栄子でした。なぜ、上流貴婦人で構成する篤志看護婦人会が必要だったのでしょうか。

日本赤十字篤志看護婦人会(その2)結成の主旨とその活動

そのねらいは、当時の時代背景を反映してとても興味深いものがあります。日赤誕生の前年、博愛社は戦時の救護看護婦の養成を目的の第一として病院を設立しました。しかし、どのように看護婦養成を開始するかが大きな問題でした。その当時、

世間一般の「看護」に対する考え方はひどく遅れており、これによって金銭をもらうなど賤業であるという見方が強かったのです。女性は家庭内で看病こそすれ、女性の職業進出そのものが希少で

師の話やドイツに留学して見聞した貴族社会の

救護活動への協力ぶり、看護は進歩的婦人の職業として尊いものであることとの認識などを背景に、まず、この賤業意識を払拭し、救護看護婦のイメージアップを図り、優秀な人材が集まる条件づく

毎月、看護講習会を開き、受講生に修了書を授与し、戦時救護活動に参加するなどの活動も行っていました。したが、それらは日露戦争当時までで、その後の活動は包帯材料などの寄贈や寄付、慰問活動の占める割合が増えていったようです。(続く)

あつた当時、汚物処理などを含む看護の仕事を婦人の新しい職業として、しかも国策の一部として養成を行うのは大問題、と考えられたのではないのでしょうか。

しかし、ナイチンゲールは貴族の出身でした。また、来日した外国人医

りが進められました。そこで、皇室をはじめとした貴婦人層に呼びかけ、プロではない無給有志からなる篤志看護婦人会が結成されたのです。そして県支会はその地域の

上流婦人が会長になりました。日赤篤志看護婦人会は

